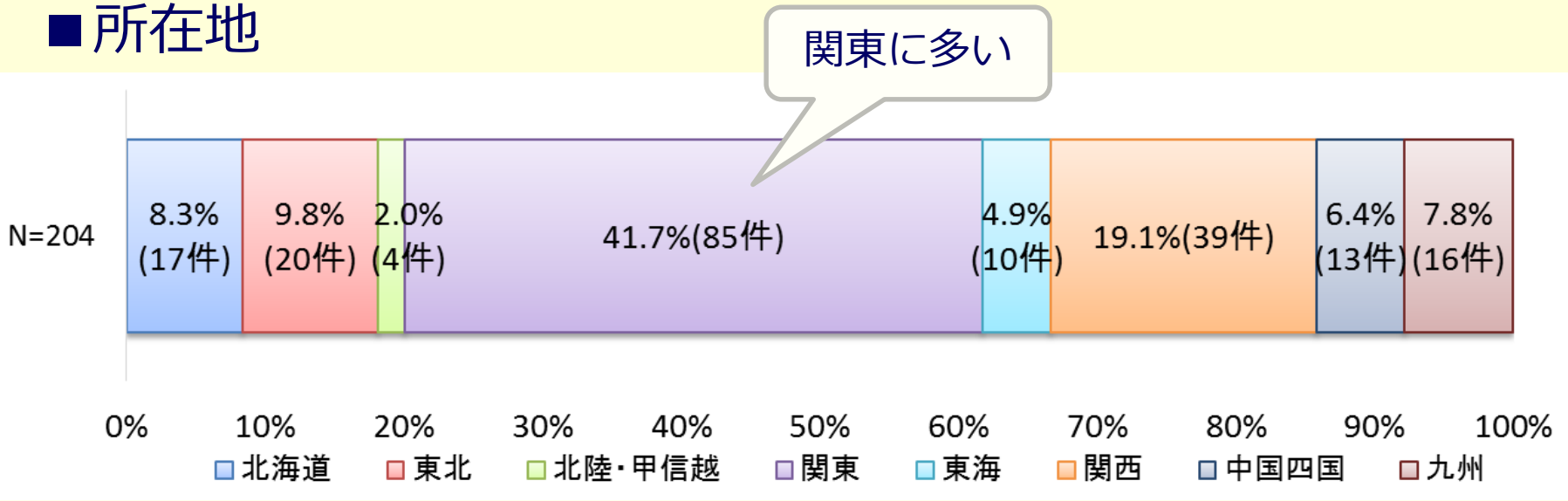
調査の概要

	第7回 （2016年）	第6回 （2013年）	第5回 （2010年）	第4回 （2007年）
調査対象	全国各地で展開している 冒険遊び場運営団体		全国各地で展開している 冒険遊び場	
配布/ 回収方法	郵送配布/ Web・郵送・FAX・メール回収		郵送配布/ 郵送・FAX・メール回収	
調査期間	2016年 11月～1月	2013年 12月～1月	2010年 9月～12月	2007年 10月～12月
有効回答数(N)	204	212	165	125
配布数	406	399	274	230
回収率	49.0%	53.1%	60.2%	54.3%

Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

活動団体の所在地と活動終了理由

■所在地



（活動終了団体を含む）

■活動を終了した団体

13団体（宮城県５，東京都４，埼玉２，京都１，熊本１）

【理由】

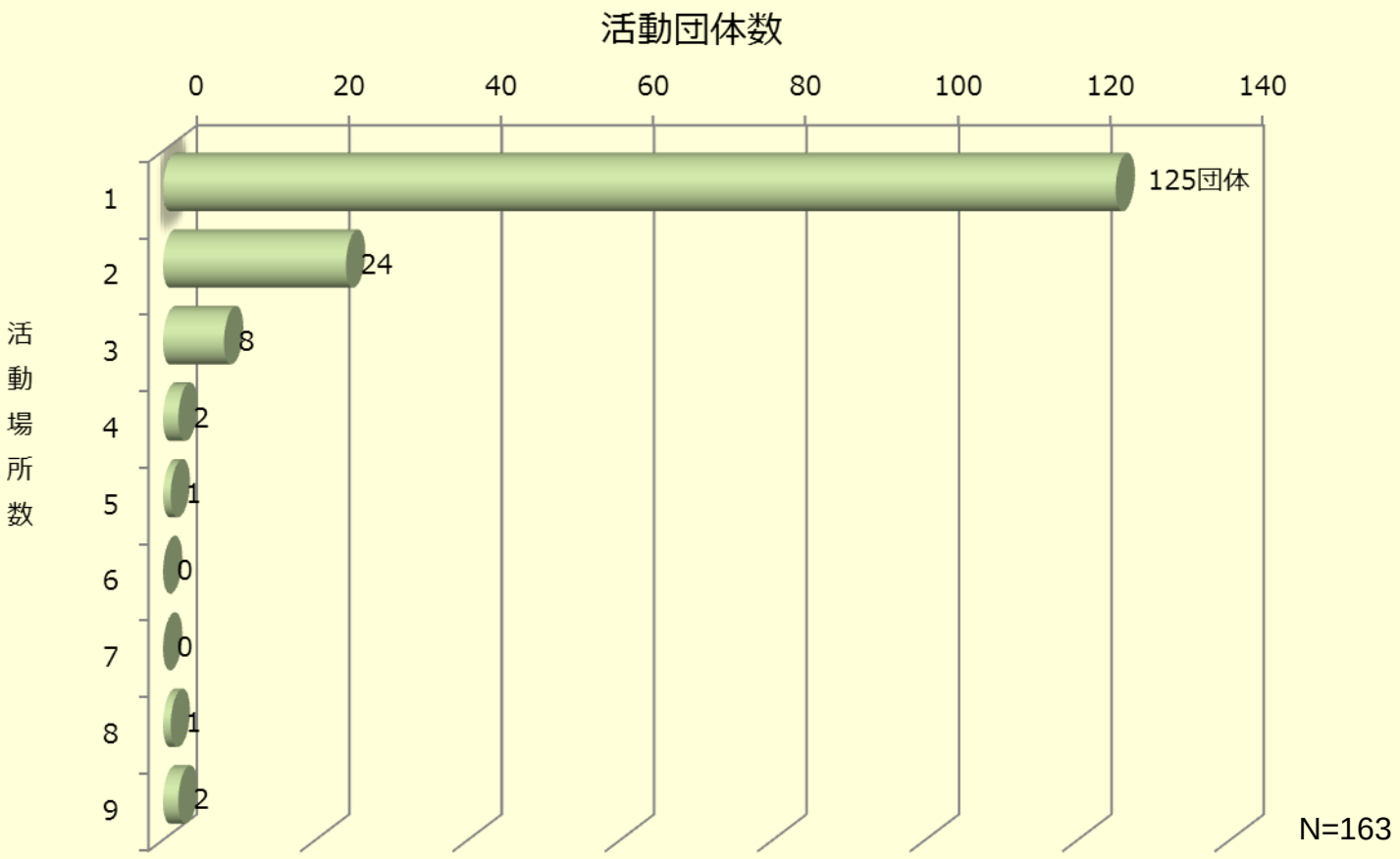
・活動場所が使えなくなった

・運営する後継者や、来場者がいなくなった

Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.

調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

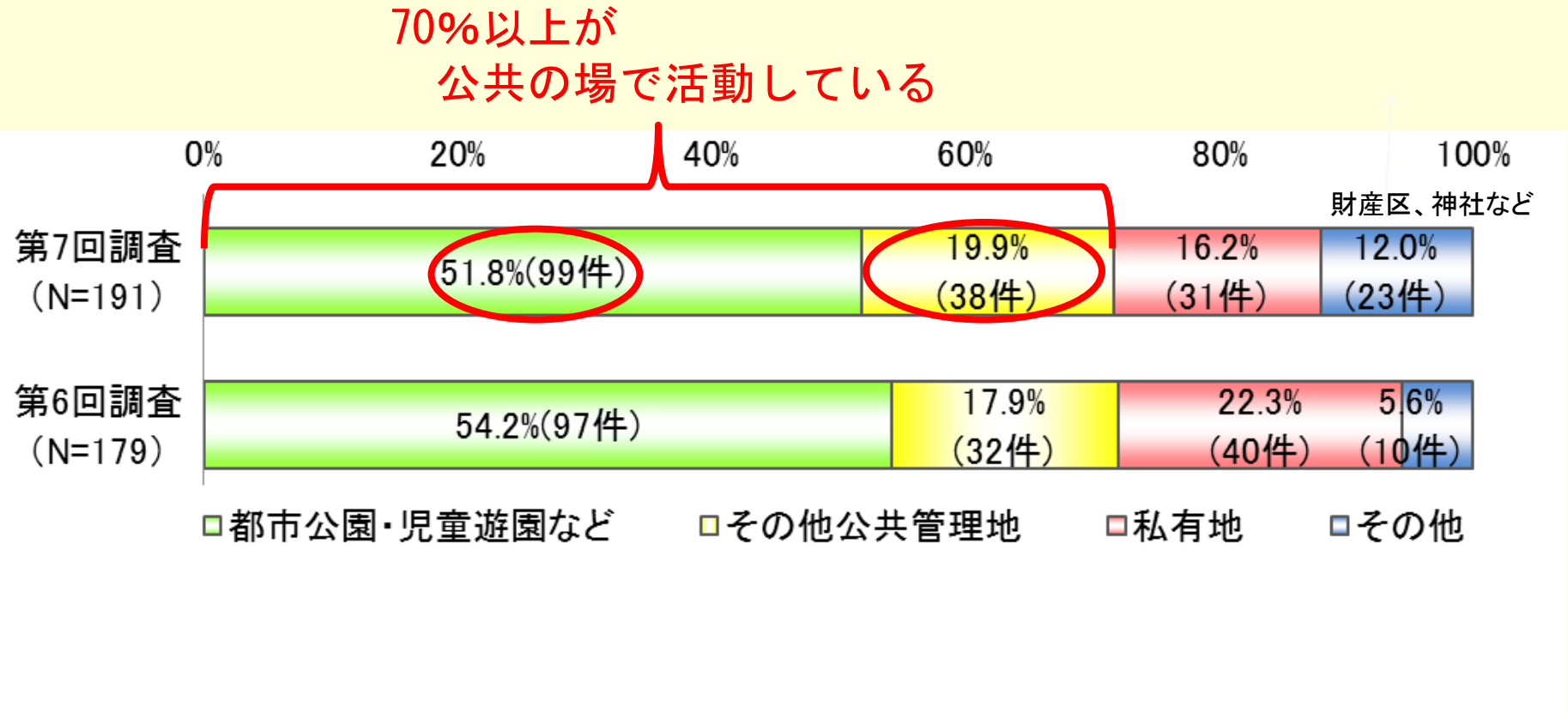
活動団体の活動場所数



合計236箇所

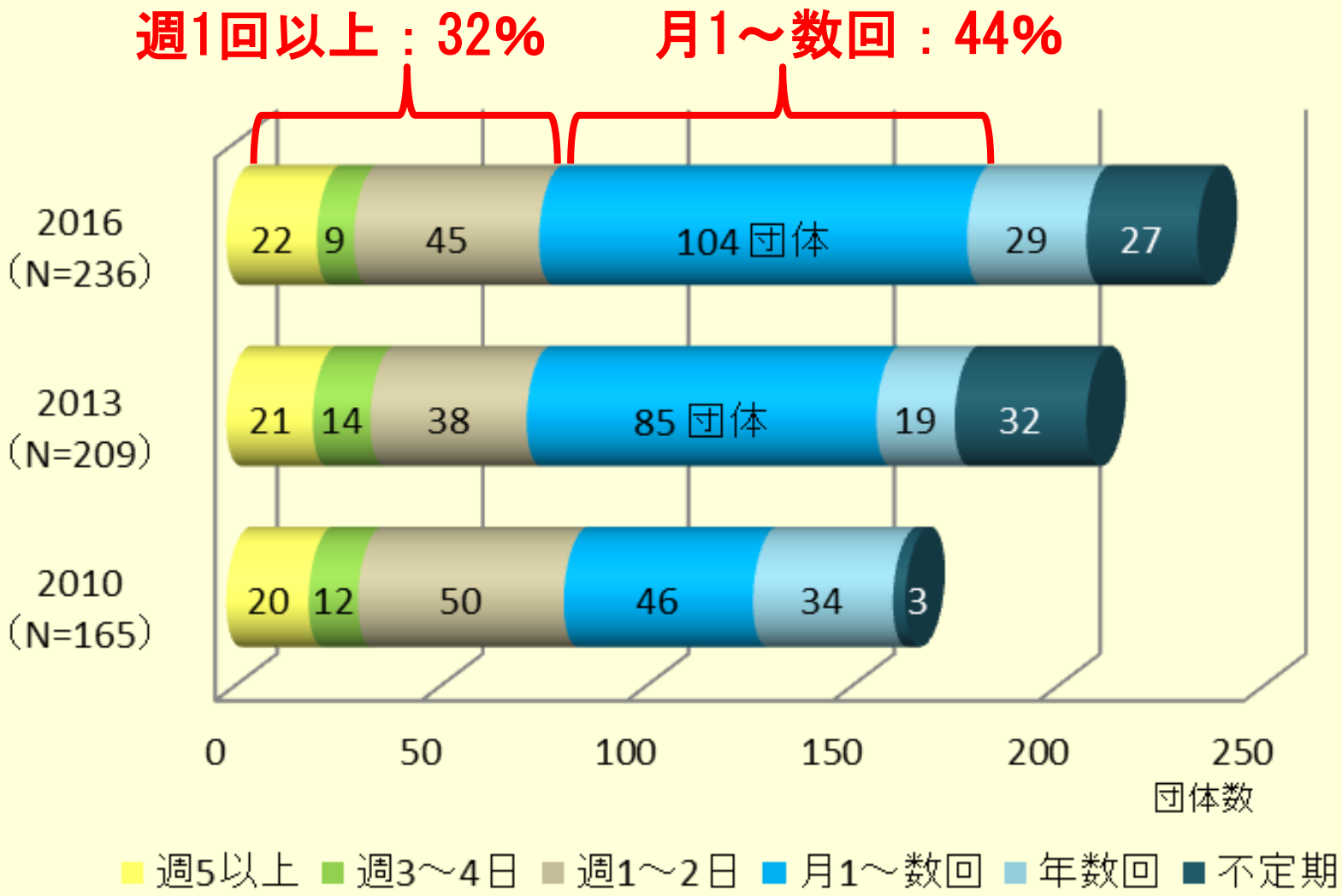
Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

活動場所



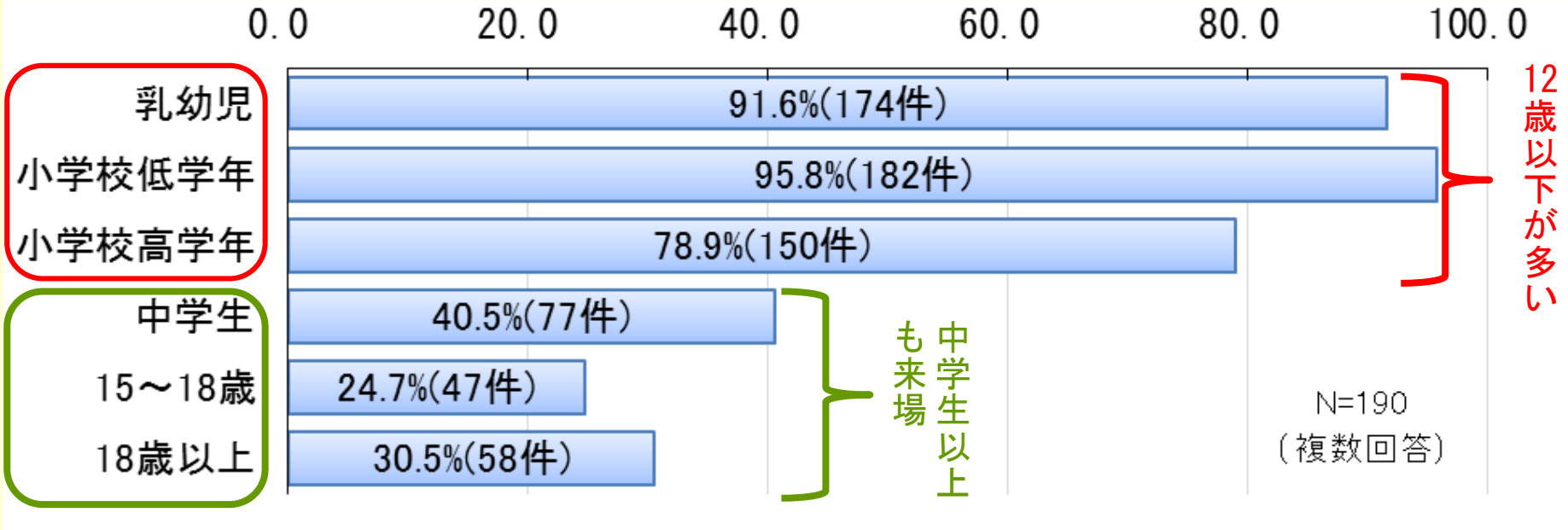
Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

開催頻度

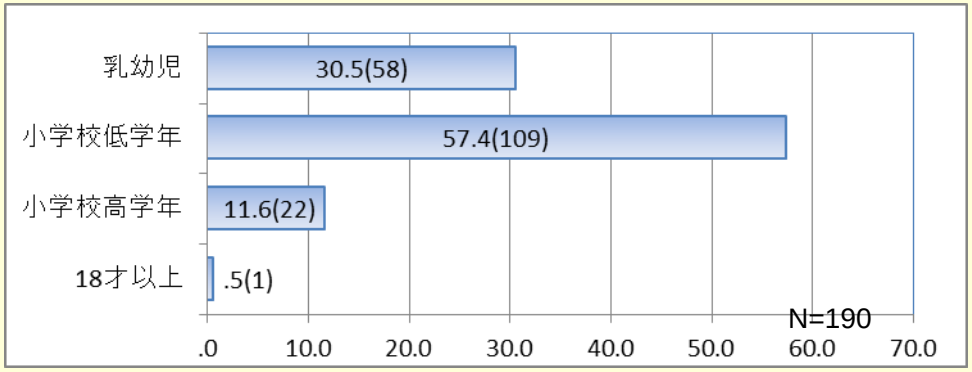


Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

遊びに来る子どもの年齢層

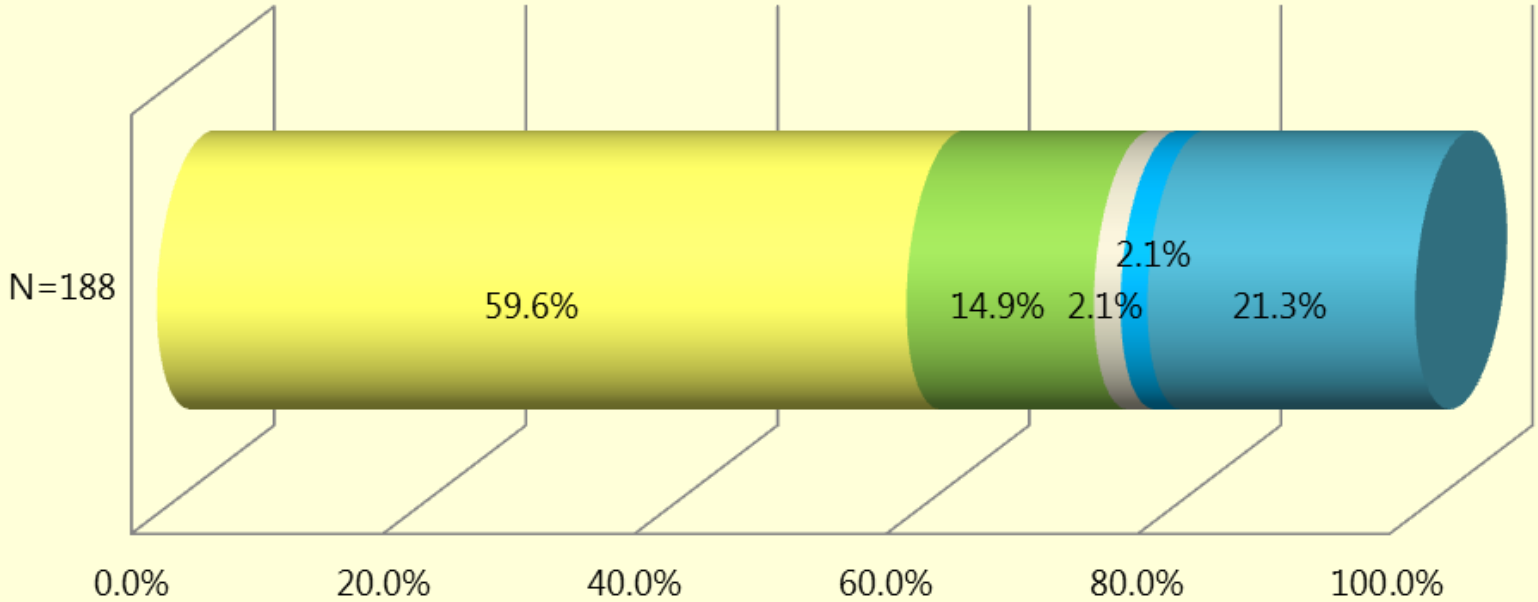


最多利用年齢層



Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力:神戸女子大学家政学部 梶木典子

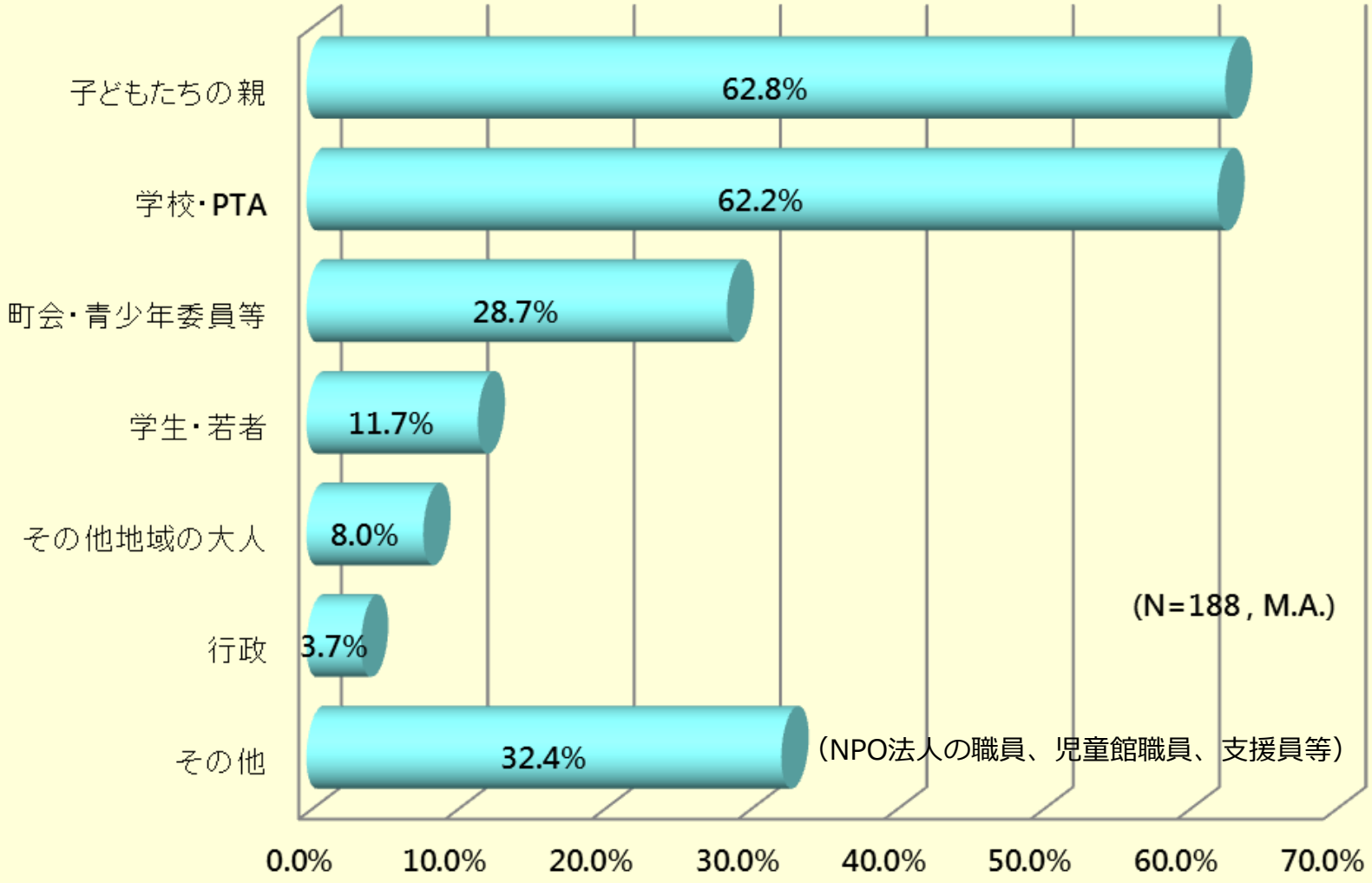
運営主体



- 主たる活動として冒険遊び場づくりを行う市民活動グループ
- 冒険遊び場を主としない市民活動グループ
- 行政・自治体
- 企業などの民間事業者
- その他 →NPO法人、指定管理者、公園管理者、大学、実行委員会形式など

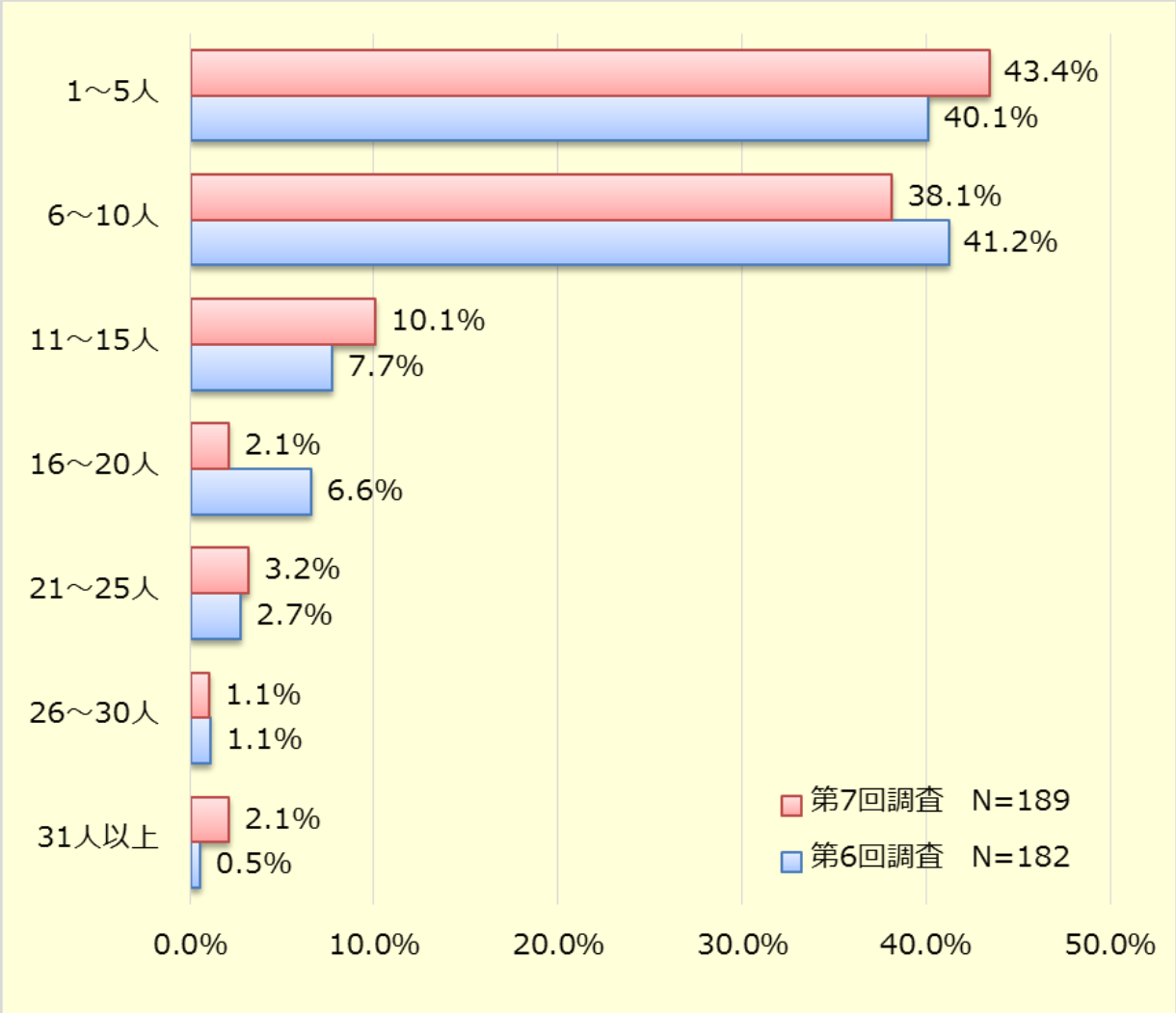
Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力:神戸女子大学家政学部 梶木典子

運営メンバー構成



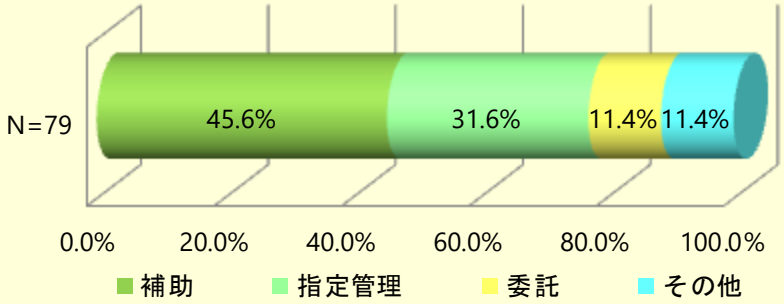
Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

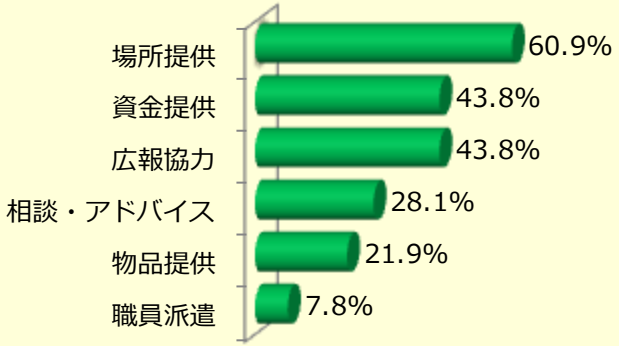
運営メンバー数



Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

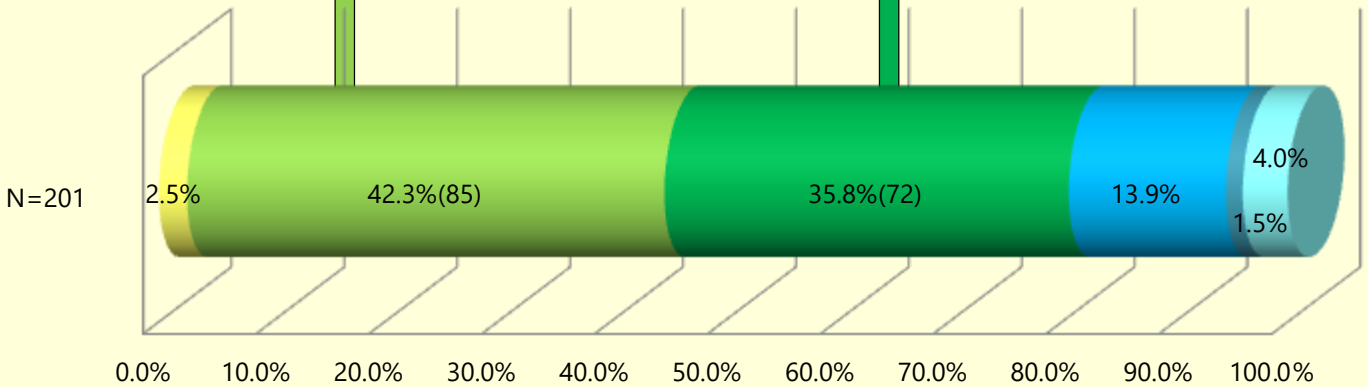
行政との関わり





パートナーシップ事業

行政直営・パートナーシップ以外の協力内容

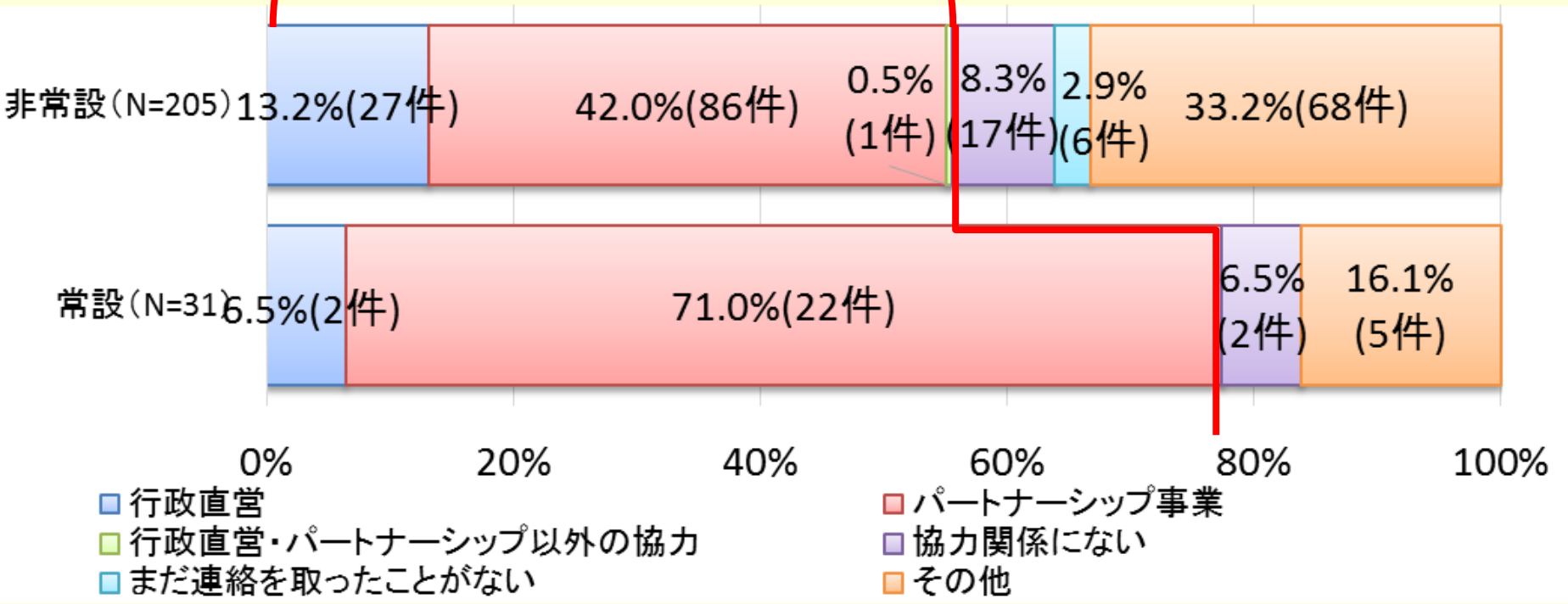


- 行政直営
- パートナーシップ事業
- 行政直営・パートナーシップ以外の協力
- 協力関係にない
- まだ連絡を取ったことがない
- その他　「以前申し出をしたが　行政理解無く諦めた。」「立ち上げのための助成金、来年からは自主事業」など

Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

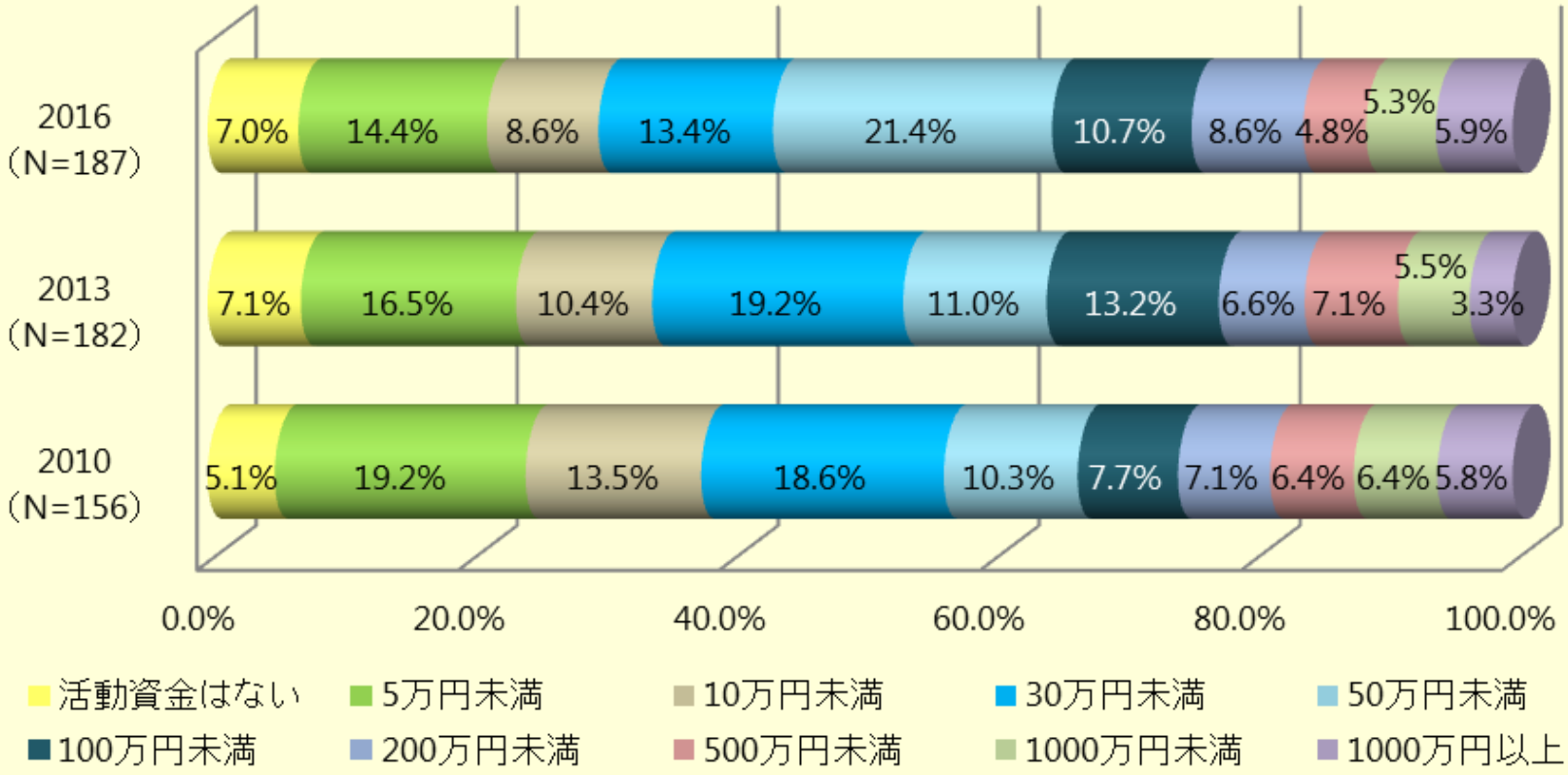
開催頻度別にみた行政との関わり

行政からの協力を受けている団体 →開催頻度が多い



Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

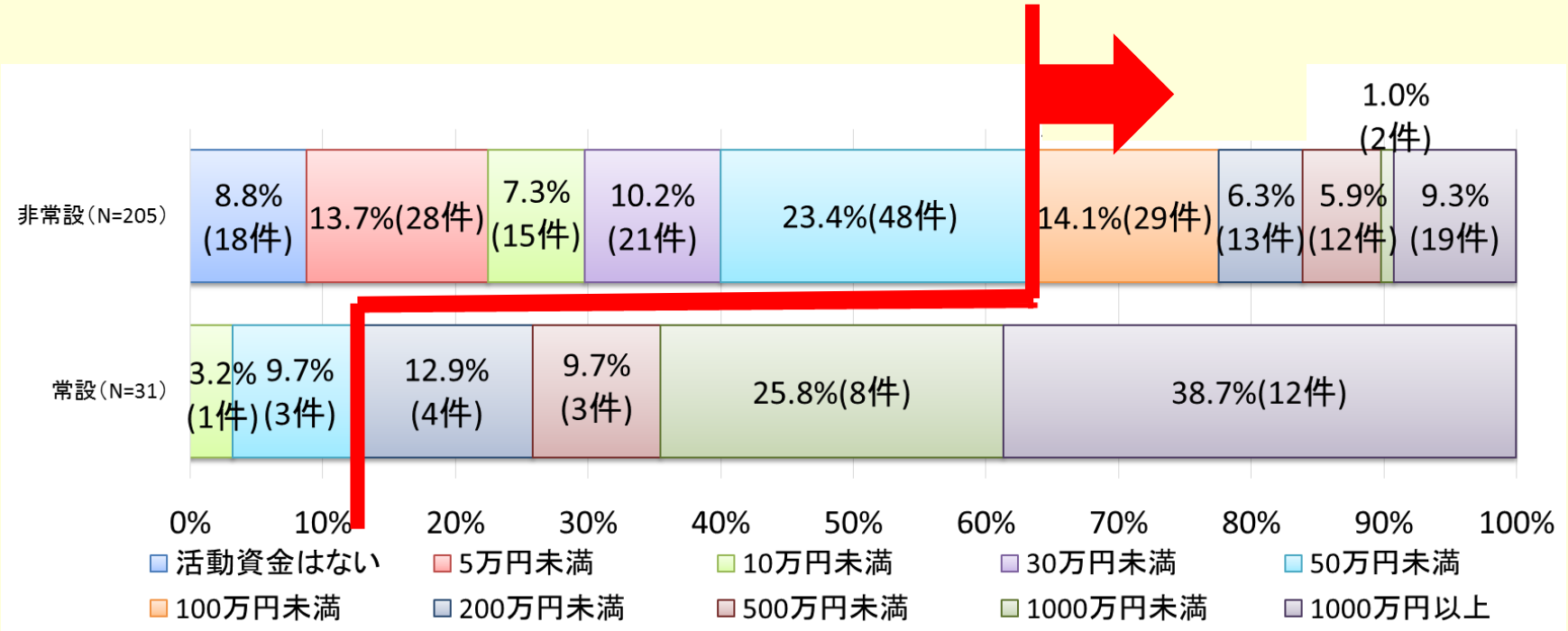
活動資金



Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

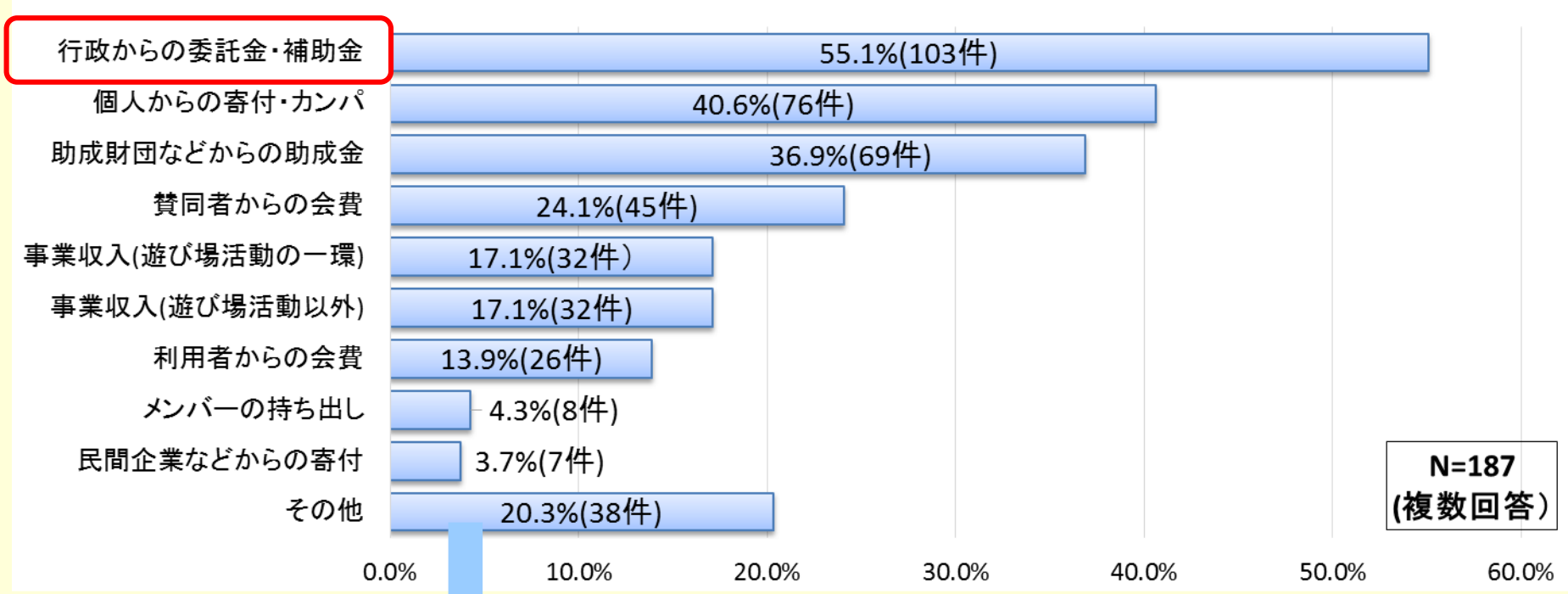
開催頻度別にみた活動資金

50万円以上



Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

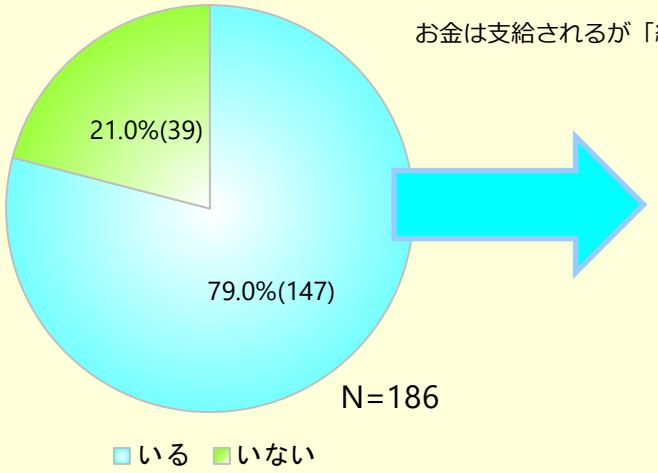
活動資金捻出元



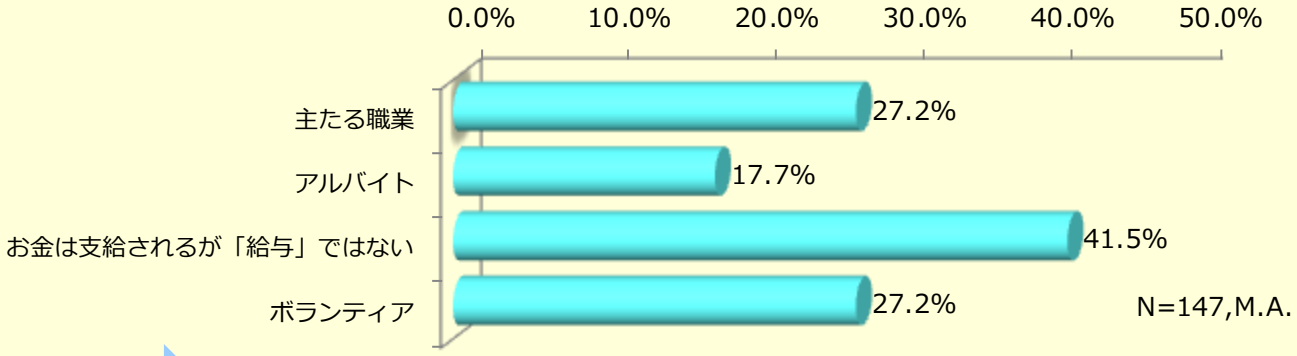
講師料、イオンしあわせの黄色いレシートキャンペーン、自動販売機設置による売り上げ等

Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

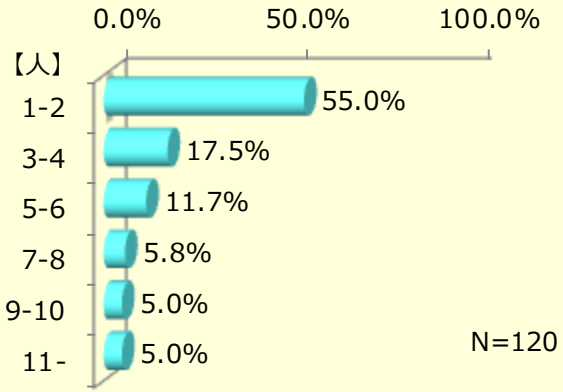
プレーリーダー（プレイワーカー）について



プレーリーダーの有無



プレーリーダーの雇用形態

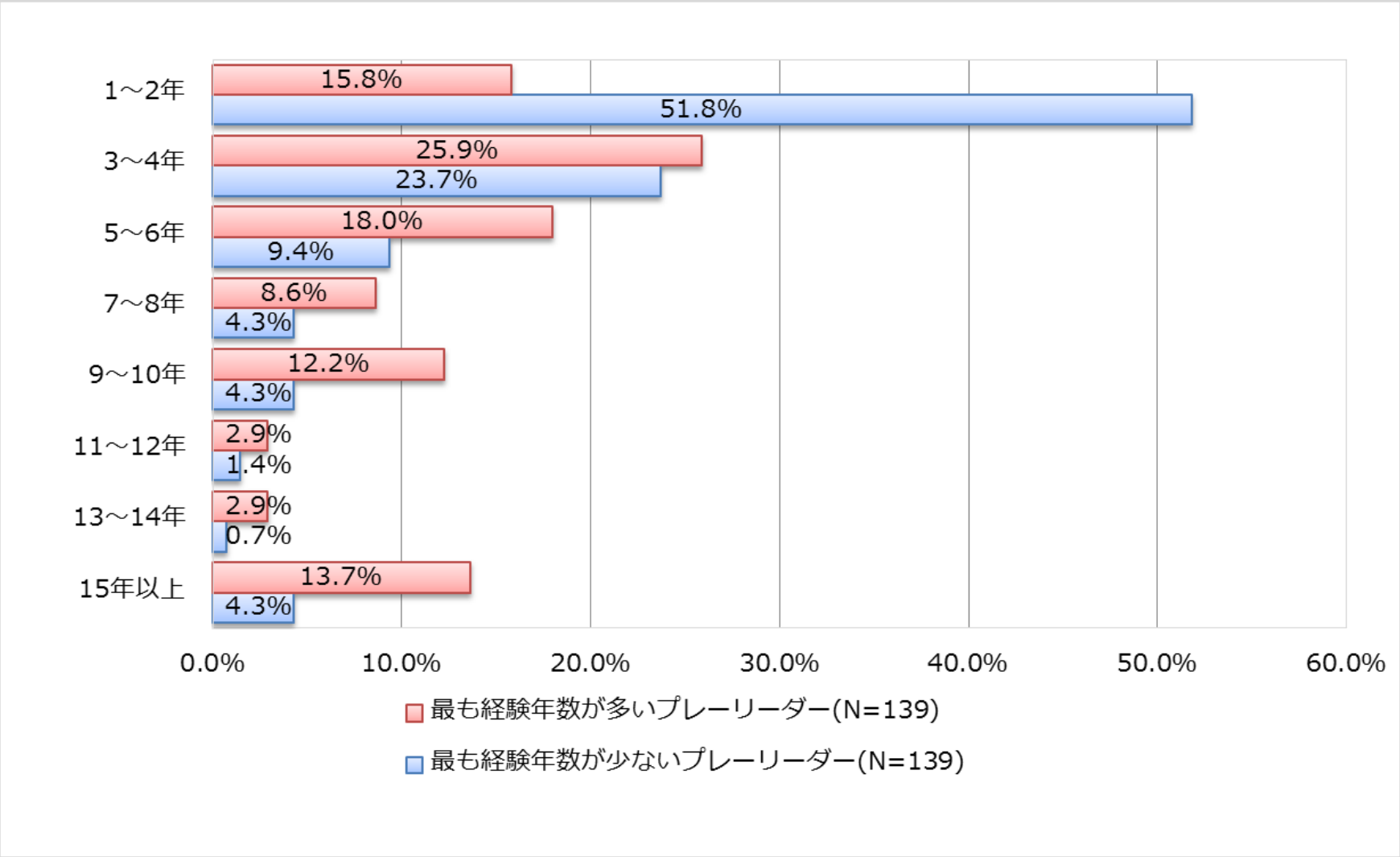


プレーリーダーの人数

平均金額
「月給」17万円
「時給」927円
「日給」7000円

Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

プレーリーダーの経験年数



Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

プレーリーダーの選考・雇用・役割等に関する意見

1．プレーリーダーのスキルに関する意見

- 「プレーリーダーという仕事の説明の難しさを理解していない。」
- 「遊び、子ども、子どもの成長、遊びの環境、地域の繋がり等に興味があり、深めることが出来る人が少ない。」
- 「プレーリーダーとしての資質（開拓精神・探求心）が必要。」
- 「プレーリーダーについて学べる機会や、資格化する制度、専門性を高め立場を明確する、共通理解を深める時間が必要である」

2．人件費など雇用面に関する意見

- 「1年ごとの契約更新、ボーナスなどの支給がない。」
- 「人件費の団体負担が大きい。」
- 「給与が全て助成金頼りとなっている。」
- 「雇用の費用の負担が助成金に頼っているので、それに頼らなくてもいいような仕組みが必要。」
- 「2人体勢にしたいが資金のめどが立たない」
- 「資金面の関係でアルバイトは1名のみ。もう１人増やせると活動の幅も広がる。」
- 「一般的な企業でも必要な書類提出などを法人として義務付けたが、それだけでは育たない部分もあり、世話人が苦悩している。」
- 「給与が低くモチベーションが下がり、長く続かず短期間でやめてしまう。」
- 「会独自で人件費を確保できるようになりたい。」

3．プレーリーダーの人数確保に関する意見

- 「プレーリーダーが１人のため、事務仕事も多くなっている。新たな人を探すことが難しい。」
- 「継続的に関わってくれる人がいない」
- 「募集をかけても応募が少ない。」
- 「“プレーリーダー”という職の認知度の低さ」

4．後継者に関する意見

- 「ボランティアなので後継者がいない」
- 「卒業や就職により継続できない」
- 「安定的開催ができないことで、給与も安定せず、若いリーダーが育たない」
- 「子ども達と自然の中で走り、遊ぶことが必要なので老齢にはきつい」

Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子

運営者が日ごろ感じていること

- 「活動資金の捻出」
- 「冒険遊び場づくり協会から、政府へ働きかけなどの要求をしてもらい、行政と交渉しやすいよう、冒険遊び場・プレーリーダーの定義がのるガイドラインを作成してほしい」
- 「冒険遊び場・プレーリーダーの定義設定の必要性」

- 「スタッフの人材育成」
- 「プレーリーダーの研修」
- 「プレーリーダーの資格化」
- 「悩みを抱えた子たちにとっての居場所としての遊び場」
- 「子どもの力を借りた地域づくりになっている。」

- 「最近は汚れを気にせず、全力で遊ぶ子どもの姿をよく見かけることができるようになってきた。」
- 「子どもの遊びに対する社会・近隣からの圧力・苦情が年々増している。」
- 「子どもの遊ぶ声・焚き火の煙の匂いなど世の中がクリーンになってきている。」

- 「プレーリーダーが１人のため、事務仕事も多くなっている。新たな人を探すことが難しい。」
- 「継続的に関わってくれる人がいない」
- 「募集をかけても応募が少ない。」
- 「“プレーリーダー”という職の認知度の低さ」

Copyright (C) 2003- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 All Rights Reserved.
調査協力：神戸女子大学家政学部 梶木典子